

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桜町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

仙丈ヶ岳－南アルプスの女王－



仙丈ヶ岳の麗姿(北岳小太郎尾根から)



小仙丈から仙丈への道

は、高山植物の宝庫との評判だが、残念ながらこの時期、もう花は無かった。

8月下旬、南アルプス・仙丈ヶ岳(3033m)に登った。甲斐駒と並んで南アルプス北縁に鎮座するこの山は、その優美でたおやかな山容の故に、南アルプスの女王とも呼ばれる。

前日は、甲府駅からバスを乗り継いで夕方、登山口・北沢峠に到着し、長衛小屋に宿を取った。

早朝4時半、小屋を出発し、真っ暗な林の中をヘッドランプ頼りに登る。5時を過ぎて東の空にモルゲンロートが映え、やっと薄明るくなる。途中の五合目・大滝ノ頭で朝食タイムを取ったりして6時40分、漸く森林限界に到達した。正面、広々としたハイマツの海に一筋の道が小仙丈に向かい延びて

9時20分、仙丈ヶ岳山頂。眺望抜群ではあるが、大勢が山頂を占拠しており、ゆっくり座る場所もない。仕方がないので、そそくさと記念写真だけ撮って先を急いだ。

下りは藪沢カールを下り、大滝ノ頭に出て、後は朝と同じ経路を戻ることにした。仙丈ヶ岳山頂からカールの底に向かって岩屑の歩き難い斜面を急下



小仙丈への登り



藪沢カール越しに仰ぐ仙丈本峰

いる。振り返れば、摩利支天を従えた甲斐駒ヶ岳が猛々しく大きい。

7時半、小仙丈ヶ岳山頂。正面に朝の斜光に輝く仙丈ヶ岳の容姿が素晴らしい。最高の日和に恵まれ、しばしのカメラタイム。

小仙丈からは、明るいハイマツの尾根道を緩やかに登って行く。左に小仙丈カール、右に藪沢カールを覗き見ながら大展望の中の登行である。この辺

降すると、カールの底に新築の仙丈小屋がある。風力発電や太陽光発電設備など備えた、なかなかシャレた山小屋である。小屋前を通過し、馬ノ背に向かい下って行く。振り返ると藪沢カールがまるで巨大なスタジアムのように圧倒的だった。

馬ノ背の手前から馬ノ背ルートに別れて右に入り、ダケカンバの林の中を馬ノ背ヒュッテ、藪沢小屋と過ぎ、11時、朝食休憩した五合目分岐・大滝ノ頭に帰り着いた。

後は朝と同じ道を辿り 12時半、長衛小屋帰着。バスを待つ間、缶ビールで百名山・仙丈ヶ岳登頂に乾杯した。